

JOCV 活動

ブルガリア共和国ガブロヴォ織物高等専門学校

佐野 由美子

(17-1, ブルガリア共和国, 家政, 新潟県長岡大手高等学校)

よろしくお願いします。新潟県立長岡大手高等学校の佐野由美子です。現職教員派遣制度を利用しまして、平成 17 年度 4 月より 2 年間青年海外協力隊としての派遣に参加させていただきました。今年度 4 月より、新潟県立長岡大手高校に、派遣以前中に在職していました学校より転勤しまして、現在に至ります。

ブルガリア共和国の概要等については、時間がありませんので、紙面をご覧ください。ブルガリアの位置ですが、ヨーロッパの地図の中で、このように小さな、黒海に面した所にブルガリア共和国があります。私の任地でしたガブロヴォという町はブルガリア共和国のちょうど中央に位置します。東西を分ける長い山脈があるのですが、バルカン山脈という所です。ブルガリア共和国の大きな産業の一つであるバラの産地であるカザンラクという所から写したバルカン山脈で、山の向こう側が私の任地になります。

2 年間ですが紙面で内容をまとめてみました。これから派遣される先生方がいらっしゃれば、派遣前の訓練について少しご紹介したほうがいいのかと思ひまして内容に入れたのですが、そうではないのかなという感じもありますので、ざっとスライドだけご紹介します。

見たこともないキリル文字から始めたブルガリア語ですが、二人の先生に丁寧にご指導頂きました。教員として、二人の指導方法は私も非常に参考になり、お二人とも語学の先生ではありませんでした。男性の方は新聞記者で特派員として日本にいらっしゃった方です。女性の方は旦那さんのお仕事が日本ということで、一緒にブルガリアから日本に来てまだ間もないということでした。訓練の後、お二人の日本語のほうがとても上達したんじゃないかなという感じもあります。語学だけではなくいろんなことがあった訓練の様子です。このスライドは、私の 6 人派遣された同期の仲間たちと先生二人と語学交流のときにお迎えした二人と写真を撮ったものです。後半に広尾訓練所とブルガリア JICA 事務所との衛星通信で任地の様子を知ることがあったのですが、当初の要請内容に無かったファッションデザインのカリキュラムも学校に全くないので、作ってほしいということがここで初めて知らされました。修了式で任国のほうに赴きました。1 ヶ月間のホームステイ生活をしながら語学訓練を受けて、語学の実践実習ということで幼稚園へ実習に行って、最終テストに合格して任地に向かいました。

私の任地のガブロヴォですが、人口 7 万人程度の中規模の町です。産業は衣料品の

製造、皮革製造等が中心になるような町です。気候については明瞭な四季を持っているブルガリア共和国なのですが、夏は最高気温 35 度くらいのこともありました。冬は、私の住んでいたところはバルカン山脈の麓にあたりまして、非常に寒くてなってマイナス 30 度という寒さの日がありました。冬の道路はアスファルトの上に氷が張って、歩いて靴の底の跡がついているという状態です。上の写真は、冬は太陽があまり当たらないのですが、天気の良い日がたまたまあったので写してみたものです。食料についても、非常に野菜、果物が豊富でとてもおいしくて、体を壊すことなく 2 年間過ごすことができました。上の写真はロマといわれる家族で、ごみ収集所を転々と進んでいて、生活に使えるものがないかということをして生活の糧にしている様子です。

私の勤務先だったガブロヴォ織物高等専門学校です。校舎は非常に古くて、大きな校舎ですが、ガラスが割れているところもあります。前の部分はコンクリートですがここはグラウンドで、体育の授業をやっていました。車が停まっているのですが、この写真は卒業式のときで来校者が多く駐車場代わりに使っているということです。非常に古い学校で、職業訓練校です。生徒数約 300 名で、10 年前に比べると生徒の人数が約半分近くになっているということです。14 クラスありました。コースが非常に多く、織物、ニット、皮革製品、コンピュータ、衣料製造、服飾デザイン、関連コース等のクラスがありました。教師数は 36 名です。要請内容は、ガブロヴォ織物高等専門学校で、日本の高校 1 ～ 3 年生にあたる生徒に、ファッションデザイナーとして学生の製作に助言を与えることがおおきな要請内容でした。先ほどお話ししましたファッションデザインのカリキュラムを考えてほしいということがありました。

今日は時間が短いのですが、要請内容であったガブロヴォの織物高等専門学校での授業の内容プラスソフィア観光総合学校という所で日本料理の講習会をやりしたのでそのお話、また日本で私が在職していました新潟江南高等学校とグランチャロフ総合学校という所で絵画交流をしましたので、それについてお話ししたいと思います。ファッションデザインの授業ですが、当初私が事務所に聞いていた話ですと、私のカウンターパートの授業に助手のような形でついてアドバイスしていくということだったのですが、学校に行きましたらあなた一人で最初から選択授業を作るから教えてくださいと言われ、いきなり一人で授業を持つことになりました。カウンターパートもいますから、カウンターパートが授業を観に来て授業内容の参考にしていくという形になりました。選択授業ということで、日本の教育とここもまた違うところなのですが、全校から希望者を募る、コンピュータをやっていても、それから染めをやっていても、どんなことをやっていても、やりたかったらどうぞという形でしたので、いろんなクラスからいるので、私が頭に描いていた形どおりの、日本の高校の被服科でやっているようなファッションデザインの授業内容はそっくり当てはまりませんでした。基本的なところから、それからいろんなコースで参考にできるものを入れたほうがいいのではないかとということで、授業内容を考えました。学校の担当の教頭先生も、好きなようにやってください、日本人の働き方を同僚に見せる、それから日本の文化、

日本らしいものをその中に入れて授業を組み立ててくださいということでしたので、試行錯誤の中でやってきました。

新年度が9月からですから秋に入って木々も色づいてきて、とてもきれいだなと思って、だんだん寒くなってきたので、外に日に当たって生徒たちと色々な話をしながら授業をするのもいいかなと思って、そういう機会がないとうことだったので、スケッチをしたものを刺繍で表現をしました。コンピュータを選択している生徒はそれもまたグラフィックで利用することもできるんじゃないかと思ひましてそのように進めてみました。縫い物をするときはこのような教室でしました。これは女性用のパンツの製図の絵です。縫い物をするときはこのロシア製のミシンと、ロックミシンというスカートの裾などを切りながらかがっていくミシンを使っていました。

授業の後半のほうには、日本の文化を取り入れるということで浴衣を作って、着物の形を実際に作って理解する、そしてそれを洋服のデザインに入れたいと思っていたのですが、そこまでは時間が足りなくてできませんでした。ブルガリア製の材料を使うことが私の大きな一つの目的でもありましたので、学校に要請はしてあったのですが、なかなか材料が買えない、買うお金がないと言われ続けて、予定より2ヶ月くらい遅れてこれは完成できないかもしれないと思ひまして、思い切って校長先生に直接、こういうことをしたいという計画があるのだけれどどうしたらいいかという話をしました。じゃあすぐに買いに行こう、という形になりまして、こういうところが面白いところでもあったのですが、それまで私のほうで苦勞もしたのですが、このようにして浴衣を製作しました。ブルガリアでここの生徒たちが初めて自分で着物を作ったと思ひます。帯も作りました。帯には本当は合わない布だと思うのですが、学校側がどうしても光沢のある布でやりたいということで、つるつるした薄いサテンという生地で作りました。これなんですけど、帯に結んでもほどけてしまって駄目なんだと言っても見た目が大事だということで、どうしてもこれでやりたいということで、私も硬くするために、中にちょっと厚いネルのような、いらないシーツのようなものが学校にありそれを貰って、中に入れて芯の代わりにしたり、工夫して着ました。布が買ってもらえない間は、茶道をやったり、書初めなどもやりました。時間稼ぎではないですけど、こういうことも取り入れて、ピンチをなんとか乗り越えて無事に完成しました。男子生徒が着ている浴衣はJICAのブルガリア事務所にあったものを借りたものです。

文化祭が年度末の5月にありました。ファッションショー、それから作品展示会が町の中心地でありまして、その様子です。ブルガリアの生徒たちだけで考えた着物のイメージがこんな形です。ろうけつ染めの模様を施して、こんな形になっています。これはカウンターパートの授業で製作したデザイン画です。後ろの作品とも展示しました。これはニットのコースの生徒の作品です。ここで日本文化紹介ということでファッションショーの中で生徒の作品を発表しました。音楽は沖縄の三線の民謡を使って生徒たちが表現しました。小物なんかも、私は何も言わなかったんですけど、雑誌

等を見て、自分たちのイメージする日本というものをうまく表現できたんじゃないかと思います。

年度末ですが、卒業式がありました。カウンターパートのクレメナさんは1年間一緒に仕事をしました。新年度は、彼女は私なしで、私の授業内容を参考にして自分で授業を組み立てているというふうになって、私のほうはどうだったかというと、実は担当の教頭先生が病気で、新年度の授業の組み立てが滞ってしまって、授業が組み込まれませんでした。で、どうしたかというと、あなたやりたいんだったら自分で生徒を集めなさいと言われて、自分の授業計画を張り出したり、前年度の授業を受けた生がまたやりたいと言ってきましたので、その生徒に何曜日だったら、何時からできる？という形で、自分で生徒を集めてやりました。新年度の60周年を迎える記念行事があり、ここでまた作品を発表しました。後期の、これは私の母校である大学の先生方から贈って頂いた材料を使ってバッグのデザインをして製作をしました。

首都ソフィアの観光専門高校で日本料理講習会の講師をしました。この学校は料理の隊員を希望していたそうなのですが、状況が難しいということで家政分野が全部出来る隊員がいるけれどどうかということで事務所から学校に紹介したら是非来てほしいということで、飛び込みの要請という感じでしたが、3～4ヶ月くらいでしたが、ここで料理を教えました。ただブルガリアで簡単に手に入るものという条件だったので、味噌などは手に入りません。味噌汁はデモンストレーションでやりました。サラダを作るときもキュウリは非常に大きいキュウリで、アクが強いのですが、板ずりをして塩で少し揉んであくを取って柔らかくして、皮を少し使って、盛り付けると非常にきれいになると先生たちがよく感想を言うてくれました。日本の料理はきれいで野菜をたくさん使って栄養価も高いということで理解して頂きました。非常に熱心な先生方で予習をしてきて、私が実習のときに行くと、先生方は非常に素早く動いていました。お米はありますが魚はいなかったのですが、お寿司をどうしても作りたいということだったのでサーモンやハムやチーズを使って、てまり寿司、簡単に出来る料理をお教えしました。

時間がなくなってきたのですが、もう一つの活動で、絵画交流会をやりました。新潟の高校と、コンピュータ隊員のいる学校と、絵画交流をすることになりました。この学校が、何か日本とやりたいという話を出して、後輩の隊員が「佐野さん何かないかな」ということだったので、「じゃあこんなことはどうかな」と提案して即やってみようということで、私も日本に電話をして、始めることになりました。10月31日、展示会の初日ですがオープニングセレモニーの展示会場の前で学校の吹奏楽部の生徒が演奏する、JOCBも皆でイベントを企画することによって大変大きな初日になりました。日本の私が勤めていた学校でも文化祭でブルガリアの様子を展示したり絵画の展示もするというところを行いました。それだけで終わってしまうのもつまらないと思ひまして、私の任地でも、私の勤めていた学校の作品を是非紹介したいと思ひまして、展示会をすることになりました。展示会場を探すのに非常に苦労たのですが、ブ

ルガリア人の友人が助けてくれまして、学校の一部に教育博物館があってその中のブースを借りることが出来まして展示しました。私たちは書道の作品を文字として見ますが、ブルガリアの方は絵というふうに見るんです。何が書いてあるのかわからないので、私は正しく伝えたかったので、一つずつ作品にどういう技法を使ったのか、何を書いてあるのかを全部翻訳して展示をしました。そのときの友人の助けが非常に大きかったです。この作品を博物館の希望により寄贈することになって、今もあります。この年の5月にまたゴルナのほうで展示会があって、そこで、今は大使が替わりましたが、そのときの福井大使ご夫妻が見学に来られたときの写真です。

私の2年間弱ですが、活動で非常に苦労したこともあります。ブルガリアの事務所の方の「上手くいったらおかしいと思え」という言葉がいつも頭にあったのですが、日本で仕事をするときもこれは大変なことで、ブルガリアでやるといってもそんなに上手くことは運ばないとはわかっていたのですが、苦労して、そのときにはブルガリアの友人、それからアジア支部の仲間の力、日本の方、大学の先生方、それから日本の職場の同僚が力になってくださいました。相手の望むボランティアの難しさ、あとは、熱意で何とかするというのは私はあまり好きじゃないのですが、そういうところも勉強になったなというのと、健康第一でなければできなかったなと思います。相手の望むボランティア活動の難しさというのは、要請内容があって私たちは派遣されるわけですが、時間差もあります。要請内容が実際には変わることもあって、そこでやはり柔軟に対応できなければ相手が望む活動は難しいんじゃないかというふうに感じました。状況を見ることがとても大事だということがわかりました。

現職に復職しまして、新しい長岡大手高校で、家政科被服科の学校なので、私の活動の紹介をしたり、授業内容でブルガリアの民族物を紹介したり刺繍を紹介しながら自分の中に取り入れて関係活動をしていきたいと思います。

以上で終わります。